

高血圧症通院者100名について

2009年から10年目の中断者と継続通院者にみる 健康管理の実際についての検討

西宮市・広川内科クリニック 広川 恵一（医師）

【共同研究者】木村優美 大浦聖子 広川秋子 渋谷淑子 藤田知子 広川江美子
杉本真知子 新井麻友 法田美津子 宮本京子 糸田裕美子 鮎田奈々

【目的】

高血圧通院者の中断の経年的観察から慢性疾患診療のあり方について検討を行う。

【対象と方法】

2009年に任意抽出した高血圧症通院者の100名（男性38名・女性62名）から2019年3月～5月に継続通院の55名と通院中止の45名について、Ⅰ 中止の背景、Ⅱ 降圧状況と処方剤数、Ⅲ 死因と背景について診療録から見直しを行う。

【結果】

1 継続55名は男性17名59～83歳（平均75歳）、女性38名55～90歳（平均75歳）。中止の45名は男性21名（調査開始時の55%）、女性24名（同38%）。中止は中断4名、施設入所3名、転院10名、入院中1名、対象外2名、死亡25名。

2 通院55名の平均血圧は126/69。140/90未満53名96%、130/80未満23名23%。平均降圧剤1.7剤（0剤3名、1剤17名、2剤27名、3剤8名、以上0名）・併用2.2剤。

3 死亡25名は男性9名（24%）・女性16名（26%）：平均87歳。癌11名（肺癌3名、大腸癌・肝癌・膵癌各2名、胆嚢癌・骨髄腫各1名）：同83歳。心筋梗塞・心不全8名：同80歳。呼吸不全2名、腎不全1名：同86歳、老衰3名：同93歳。認知症状10名（同92歳）。

4 100名の癌既往27件。大腸癌6件（重複1件）、肺癌5件、胃癌3件、肝癌・膵癌・食道癌・直腸癌各2件、胆嚢癌・骨髄腫・膀胱癌・骨肉腫・子宮癌各1件。

5 死亡者からみた予後悪化に関する背景、①年齢（平均年齢86歳）90歳以上10名、②基礎疾患、③認知症、④家族構成：単身10名・二人暮らし13名、⑤難聴6名・歩行障害13名（通院要介助）、⑥療養意識・家庭環境であった。

【まとめ】

- 1 10年経過し中止背景は中断4名・転院・施設入所等16名・死亡25名であった。
- 2 100名のうち4人に1人に癌罹患あり慢性疾患での癌早期発見の手立てが大切である。
- 3 平均降圧剤は1.7剤で平均血圧125/69・併用薬2.2剤で定期的な見直しは重要である。
- 4 予後には高齢、基礎疾患、認知症、家族構成、機能障害と療養意識が複合している。

【結論】

高血圧診療の中断背景はじめ降圧と処方と合併症の定期的な見直しは、慢性疾患で予後を検討する上で意識付けに役立ち、自らの診療チェックリストを豊かにするなど有用である。